

E ビザの面接のポイント (Essential Employee)

1. はじめに

- Eビザの申請には管理職 (managerial employee / executive employee)とスペシャリスト (essential employee) の2つのカテゴリーがあります。
- どちらに該当するかはサポートレターの1ページ目、Summary of the applicationのType of Applicantでご確認いただけます。

2. Essential Employeeとは

- ビザ審査のガイドラインであるForeign Affairs Manualではessential employeeを以下の様に説明しています。
 - 特別な資格を有する社員が企業の効率的な運営に必要な不可欠なサービスを提供する場合にEビザカテゴリーの資格を与えます。従って、社員は特殊技能を有していなくてはならず、また同様にそうした技能が企業に必要とされていなくてはなりません。
 - “必要不可欠な社員”であるかどうかを決断するには領事館職員の判断力を駆使する必要があります。決まった定義を機械的に適用する簡潔明瞭な方法ではなく、その性質により、原則的に各事例個々においての特定の事実を評価する必要があります。
 - 申請者には、自身が提供する技能の必要性のみでなく、そうした技能が必要となる期間の長さも申請時に確立する立証責任があります。通常、Eカテゴリーは専門職者用に意図されており、通常の技能を有する人のものではありません。
 - 長期の必要性：雇用主は、製品改良、品質管理の継続展開、もしくはその社員のみが提供できるサービスといった職務に社員が従事する際継続的な必要性を示すことができます。
 - 短期の必要性：社員の目的が事業の立ち上げ或いは事業が新たに開始する活動、もしくは製造、メンテナンス及び修理の職務に雇用される技術者のトレーニング及び監督に関連したものである場合、雇用主はその技能を（一年または二年といった）比較的短い期間のみ必要とするかもしれません。

3. Essential Employeeの審査のポイント

- サポートレターで必要な説明はなされていますが、領事から補足説明を求められることがあります。その場合は以下のポイントに注意してお答えください。
- 前述のように、まず申請者の役割が米国拠点にとって必要不可欠かどうかを見ます。特殊技能を有する申請者を派遣することができないといかに困るか、事業にどのような支障がでるのか、なるべく具体的かつ平易な表現を用いてご説明ください。「この人が派遣できないと確かに困る」と領事が実感できるように、部下の人数、担当する顧客数、所属する部門の売り上げなど、数字、固有名詞などを入れると効果的です。
- 次に申請者の技能が特殊であるかは以下のポイントを見ています。これらのポイントに準じて、具体的に平易な表現を用いてご説明ください。
 - その技能を習得するには、どれぐらいの経験、トレーニング、期間を要するか
 - その技能は特殊な（独自の）ものか
 - その技能を有する人材がアメリカに少ないか（いないか）、現地で採用することが難しいか
 - 技能の特殊性や知識の専門性を反映した給与か

4. 領事の質問への対応

- 今回の申請でなにをessential skill（必要不可欠な特殊な技能）として主張しているかをご確認ください。サポートレターのThe applicant's qualifications記載されています。
- 自身のessential skillと前述の審査のポイントを理解した上で、以下の質問への回答をご準備ください。
 - あなたはどのようなessential skill（必要不可欠な特殊な技能）を有していますか？
 - あなたの技能・知識はどこが特殊なのですか？
 - あなたのサラリーはいくらですか？essential employeeとしては低くありませんか？
 - 短い就業期間でどうやってそのessential skillを身に付けましたか？
 - 大学の専攻と異なっているのに、それは特殊な技能・知識なのですか？
 - あなたを派遣できないと米国拠点の運営にどのような支障が生じますか？
 - あなたの言うskillを有する人はアメリカにもいます。なぜ現地採用ではダメなのですか？

5. 一般的な注意事項

- フレーズは短く、簡潔にお答えください。
- 英語が苦手の方も初めは英語でお答えください。ただし英語での回答が難しいと感じた場合は、誤解の無いよう正確の伝えたい、として日本人スタッフの通訳をご依頼ください。留学などのビザと異なり、高い英語力が求められる業務ばかりではありませんので、通常就労ビザで英語力が理由でビザの申請が拒否されることはありません。英語での面接は慣れていないが、実務を行う上では問題ないをご説明ください。ただしポジションによってはこの英語力ではそのポジションの業務は遂行できず、必要とされる能力に欠けると判断される可能性もあります。
- 面接の際メモなどを見ながら回答をすることはお避けください。回答をそのまま読み上げているとみなされ、指摘を受けたことがあります。必要に応じて確認する程度にとどめてください。
- これまでの経験、保有する知識と実績に自信を持ち、堂々と胸を張って面接にお臨みください。